

えが大切な時代に来ております。そういった部分で医療的ケア児に対する部分も、特に学校で一緒にいる生徒さんやそういった部分、また、私達、大人の部分もこういった認知症サポーターのような状況が、キャラバンをやったり研修会をして、皆さんが特に何かするという部分ではなくて、しっかりとご本人、またご家族に寄り添えるような理解した糸魚川であってほしいと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

あと最後1点になりますが、ちょっと今回状況聞きますが、このささえあいプランにちょっと数字が記載がなかったようなので、その点だけ聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

前回のささえあいプランの中では、医療的ケア児の数というのは掲載しておりましたが、今回の改定された部分につきましては、数字が記載されておらず、先ほど市長答弁の形でご報告させてもらったとおりでございます。今後、またささえあいプランの改定時には、こういった部分につきましても大切な部分だと捉えておりますので、適切に対応してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

加藤議員。

○9番（加藤康太郎君）

総合計画の部分も最上位計画と申しますが、私、やはり糸魚川市民憲章が、糸魚川市民の最終的に目指す部分でございます。糸魚川市民憲章にあるとおり、お互いの絆を大切にし、思いやり輪を広げるような優しい糸魚川であってほしいと思っております。

以上で、一般質問とさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、加藤議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。再開を2時半といたします。

〈午後2時20分 休憩〉

〈午後2時30分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、宮島 宏議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。〔14番 宮島 宏君登壇〕

○14番（宮島 宏君）

清新クラブの宮島です。

私は、4月に行われた市議選において、糸魚川の宝を守り、生かす、人、こと、ものをポリシーに掲げました。これは1992年に糸魚川に転職して以来、フォッサマグナミュージアムやジオパークなどの業務に当たる中で、基本指針としてきたものでもあります。今後も糸魚川の宝を守り、生かす、人、こと、ものを基本に取り組み、建設的な提言や的確な評価をすることで、糸魚川市の持続可能な発展に微力ながら貢献したいと考えております。

糸魚川に生まれてよかった。住んでよかった。来てよかった。また来たい。そんなまちになるように努力いたします。

本日は、通告のとおり4項目の質問をさせていただきます。

最初は、谷根川で新たに発見されたポットホール群の保全と利活用についてです。

昨年5月に地域観光資源活性化研究会会長の渡辺 保氏が谷根川で発見した特異なポットホール（甌穴）については、市長をはじめとして多くの市の職員の方々に視察していただきました。大変ありがとうございました。同年10月には渡辺氏らから市長へ「谷根川の大釜とポットホール群」に関する要望書が提出され、要望の趣旨とその理由とともに要望の詳細として、大きく3項目から成る具体的要望がなされています。以下、伺います。

- (1) 谷根川の大釜の発見について、市長はどのように評価されていますか。また、今後、どのように保全、整備、活用されるべきだと考えていますか。
- (2) 要望書の「要望の詳細」にあります「A. 整備や設置をしていただきたいもの」の項目で、進められているものや、検討しているものがありますか。
- (3) 要望書の「要望の詳細」にあります「B. 普及活動として実施していただきたいもの」の項目で、実施されたものや、実施を検討しているものがありますか。
- (4) 要望書の「要望の詳細」にあります「C. 天然記念物の登録に向けてお願いしたいもの」の項目で、実施されたものや、実施を検討しているものがありますか。
- (5) 大規模な地滑りに伴う岩屑流による貴重な地形として、谷根川のポットホール群、滑落崖に形成された滝群、八十八ヶ所、強羅巡り、月不見の池などの巨岩集積地を複合することで国指定天然記念物の価値を有するものであり、スピード感を持って取り組むべき課題と考えますが、いかがですか。

続いて2番目は、梅海新道50周年と特別展の図録についてです。

故小野 健さんが率いたさわがに山岳会が伐開した梅海新道が開通して、今年で50周年となります。このことに関して、以下伺います。

- (1) 市長は、梅海新道についてどのように評価されていますか。地域振興と人材育成の観点からお答えください。
- (2) 50周年を記念して、これまでどのような取組をしてきましたか。今後の事業としては、具体的にどのようなものがありますか。
- (3) 故小野 健さんが撮影された膨大な量のポジフィルムが、ご遺族から市に寄贈されています。これらを活用して梅海新道の写真集の出版、デジタルフォトギャラリーなどの公開の予定はありますか。

(4) 展示会の図録は特別展開催後も活用され、歳入にもなるものです。かつてはヒスイ、ナウマン博士、新鉱物、腕足類、アンモナイトなどの特別展に合わせて図録が刊行されていましたが、近年では皆無となっています。図録が発行されなくなった原因は何ですか。図録発行を復活させることについては、いかがですか。

(5) フォッサマグナミュージアム、長者ヶ原考古館、相馬御風記念館などで行われてきた過去の特別展・企画展の内容を、ホームページで把握できるようになっていますか。展示会で製作したパネルなどのPDFなどを公開することについては、いかがですか。

3番目は、糸魚川ー静岡構造線についてです。

根知のフォッサマグナパークにある糸魚川ー静岡構造線の露頭については、2020年11月20日に国の文化審議会が文部科学大臣に天然記念物に指定することを答申し、本年3月26日発行の官報で告示されました。

(1) 市長は、フォッサマグナパークに関係した様々な人たちの取組や、国の天然記念物に指定されたことの意義について、どのように評価認識されていますか。また、活用・保全について、今後どのようにしたいと考えていますか。

(2) 国の天然記念物になったことを国内外に周知する必要があると考えますが、これからどのような方法での周知を考えていますか。

(3) 天然記念物指定の記念イベント、記念出版などについては、検討されていますか。

(4) フォッサマグナパークには1994年に、現在の竹之内耕博物館館長が発見した枕状溶岩がありますが、この枕状溶岩の学術的価値について、県内外の枕状溶岩、特に根室車石と比較して評価すると、どのようなことが言えますか。

(5) 枕状溶岩は、発見後に設置されたロックシェッドにより、全容が観察しづらくなっています。この改善に向けて、何か検討されていますか。

最後の4番目は、糸魚川の自然環境の保全について。

特に特定外来生物オオキンケイギクの駆除についてです。

糸魚川の自然環境の保全は、ユネスコ世界ジオパークの一員である本市にとって重要な課題です。生態系や農林水産資源などに悪影響を及ぼす特定外来生物は本市にも侵入しており、特に現在開花期を迎えているオオキンケイギクは、非常に目立ち、認識しやすい植物であるにもかかわらず、市内各所で見かけ、駆除が進んでいないように思います。これはオオキンケイギクが駆除すべき特定外来生物であることが、十分に周知されていないことに原因があると、私は考えています。

(1) 市長は自然環境の保全の見地から、本市におけるオオキンケイギクの駆除の現状について、どのように評価認識されていますか。

(2) オオキンケイギクの分布や増減について、把握していますか。

(3) オオキンケイギクの駆除について、市のホームページなどで市民にお願いしていますが、具体的な成果は上がっていますか。

(4) オオキンケイギクの駆除についての普及啓発として、チラシ、ポスター、デジタルサイネージ、出前講座などを行っていますか。

(5) 市が管理する施設でのオオキンケイギクの駆除を、管理担当者に指示していますか。

(6) オオキンケイギクの駆除は、個人が行うよりも組織的に行うことが効果的です。オオキン

ケイギクが多い地域では、道路や海岸のゴミなどの回収のボランティアの方々に、オオキンケイギクの駆除を依頼するようにはありましたか。

以上で、私の1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

宮島議員のご質問にお答えいたします。

1番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

2番目の1点目につきましては、植生の変化や貴重な動植物が観察できることから、登山客の誘客のみならず、子供たちへのジオパーク学習の促進などに寄与しているものと考えております。

2点目につきましては、地元山岳会やジオパーク協議会とともに、事業内容を検討してきたところであり、来月からフォッサマグナムミュージアムを中心に特別展や記念講演会などを行う予定といたしております。

3点目につきましては、今回の記念事業の展示物として活用させていただくことといたしており、その後、活用については、地元山岳会や関係者と検討してまいります。

4点目につきましては、これまで全ての特別展で図録を刊行しているわけではありませんが、今後も必要に応じて刊行してまいります。

5点目につきましては、これまでの展示や活動実績を含め、ホームページでの公開を検討しております。

3番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

4番目につきましては、チラシの配布、ホームページ、地域清掃活動等の機会を通じて啓発に努めており、市民の方々の理解も浸透していると考えておりますが、河川敷や道路のり面、空き地などでは繁殖しており、完全な駆除には至っておりません。引き続き、周知・啓発に努めてまいります。

なお、市の施設につきましては、施設管理者に指示をし、駆除に努めております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

宮島議員の1番目と3番目のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、新たな地域資源の発見として大いに期待しており、保全・活用等につきましては、現在、調査検討しております。

2点目につきましては、文化財指定後の対応になると考えております。

3点目につきましては、出前講座などで、その学術的価値を解説しております。

4点目につきましては、文化財指定の必要性などを審議するため5月開催の文化財保護審議会で現地視察を行ったところであります。

5点目につきましては、月不見の池など周辺資源の活用も含め、検討してまいります。

3番目の1点目につきましては、これまで整備してきた断層露頭の科学的価値が高く評価されたものと考えており、今後もジオツアーなどの学習の場として、引き続き、活用してまいります。

2点目につきましては、市長による報道発表のほか、ミュージアムでのパネル展示やジオパーク講座、広報での周知を行いました。今後は、日本や世界のジオパーク大会での発表、教育旅行の場としての周知などを考えております。

3点目につきましては、記念イベントとして、シンポジウムのような形で実施できないか、検討しております。

4点目につきましては、根室車石を上回る大きさであり、国内最大級と評価しております。

5点目につきましては、フォッサマグナパーク保存活用計画策定委員会で議論していただいております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

ご回答いただき、ありがとうございます。

質問に沿って、順番に谷根川の大釜から行きたいと思います。

整備や設置をしていただきたいものという項目がありますけれども、12項目からあっております。これらのもので、既に実施済みのものは、どれでしょうか。よろしく願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

お答えいたします。

谷根川の大釜につきましては、整備したのにつきましても、危険告知看板を整備させていただきました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

昨年10月23日に、渡辺会長らが市長に要望書を出しました。その日から計算すると238日が経過しております。その間、市のほうでは、いろいろな議論がされたと思うんですけども、まず、整備や設置していただきたいものっていう12項目のうち、もう既に実施されてるものが注意危険告知看板だけであるということです。ほかについては、検討中とかそういうものはないんですし

ようか。例えばパンフレットに追加する予定だよとか、解説板も新たに追加する予定だよとか、そういったものはないんでしょうか。それとも、もう検討に値しないという判断なんでしょうか。よろしくをお願いします。伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

先ほど教育長が答弁いたしました、文化財保護審議会にて視察を行っております。文化財保護審議会にて文化財指定の方向性が分かってきましたら、検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

ありがとうございます。危険看板が設置されてるということなんですが、その看板が、いつの時点で設置されたのか、それについては、あえてお聞きしません。

続いて、普及活動として実施していただきたいものという項目があります。Bの（3）の部分です。出前講座等をなさったということですが、いつ、誰が講師としてなさったんでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

4月2日に能生ふるさとサークルからの依頼で、市の学芸員がコスモクロアと谷根川の大釜について、説明を行っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

小河原学芸員が説明されたと思うんですけども、発見者である渡辺 保さんも公民館等で大釜についての普及講演をなさってますし、私も同様です。今後、最大限、文化財の価値づけに協力したいと思っておりますので、ぜひ渡辺 保さんや宮島を出前講座の講師として、考えてください。

これは要望です。

ポットホール、谷根川の大釜はポットホールなんですが、どういう点がすごいのか、市はどのように認識されてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

谷根川の大釜の特徴といたしましては、ポットホール自体が非常に大きいということ、穴の深さもあるということ、後は、普通は岩盤とかにポットホールができるところですが、大きな転石に穴が空いてる点、また、側面にも穴が空いてる点が特徴であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

今、伊藤課長の指摘された3つの特徴に加えて、私は自然がつくったポットホールが保持された原因が、人間の営みなんです。

明治時代に谷根集落に至る道路が造られました。そのときに谷根川の流路が変更されました。それによって浸食が停止し、現在まで残ってるということで、人間の営みがなければ、川によって削られてなくなっていたという。あるいは、工事の人たちが、それを壊す可能性もあったんです。いろんな偶然が重なって、現在に至る。これはジオパーク的には、非常に面白いストーリーだなということだと、私は思っています。ぜひそういった視点でも、谷根川の大釜を見ていただきたいなと思います。

谷根川の大釜が、新たに発見された。これは、ユネスコ糸魚川世界ジオパークの中で、地元の市民が自ら発見したということで、今年予定されている審査でもプラスになると思うんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるようにジオパーク活動では、地域の住民が地域のよさに気づき、また、それを生かして持続可能な発展につなげるボトムアップのプロセスが重要とされておりまして、それが郷土愛の醸成にもつながるといふふうに考えておりまして、今回の市民による発見につきましては、世界ジオパークの再認定審査におきましてもプラスになるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

審査の際には、地元市民が発見した価値のある宝を、今度はどういう保全をするのか、どういう活用をするのか、これが非常に重要になってくると思いますので、よろしく願いいたします。

次は、谷根川の大釜のPR方法なんですけれども、ご存じのように記者会見を開いて、テレビや新聞等で大きく取り上げられました。NHKニュースなどでもかなり長い時間をかけて取り上げられました。

糸魚川信用組合が発行する「いとしんだより」でも取り上げられまして、こういった糸魚川信用組合が発行している1ページ目と2ページ目を使って、大きく取り上げられています。

しかしながら、糸魚川市の広報、あるいは関係する博物館、フォッサマグナミュージアムなどで、谷根川の大釜についての紹介が、私の調べた限りでは、なされていないように思うんですけど。これ非常に残念なことだと思います。市長にお伝えして、あるいは発見から、もう1年たってるわけで、非常に価値のある宝である。それから、市の指定の文化財、天然記念物に向けての動きも既にあるということなんですけど、残念ながら市民の方へのお伝えがあまりされていない。これは何か理由があるんでしょうか。伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

特に理由等はございません。

なお、先ほども申し上げましたが、市文化財保護審議会で5月14日に現地視察を行っております。教育委員会の教育委員さんにも、昨年、現地を見ていただいております。今後、文化財の指定の方向が定まってきましたら、当然、周知はしていかなければならないというふうに思っておりますし、指定につきましては、科学的価値が評価されるということでもありますので、今後、文化財の方向性が定まれば、周知に努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

糸魚川ジオパーク協議会のホームページですとかSNSにおきまして、谷根川の大釜の現地の様子につきましては、紹介させていただいております。

その後につきましては、今後の動向を踏まえる中で、また周知、PRに努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

ポットホールは、大正時代以降、天然記念物に多く指定されています。その理由は、誰が見ても分かりやすい地形であるということですね。石に穴が空いてる。今回の谷根川の大釜は、今まで国の指定を受けている天然記念物と比べても、非常にユニークだと思います。要するに、似たものがない。ということは、国の天然記念物になる価値が十分あると、私は信じています。

ただ、宮島が言うだけでは、皆さん信じてくれないかもしれませんので、ぜひほかの専門家も現地へ招いて、客観的な評価を皆さんが把握されることを強くお勧めします。

昨年、私の知り合いで、現在、山形大学の地域教育科学部の八木浩司教授に来ていただきました。彼は地形学の専門で、昨年まで日本地すべり学会の会長でした。彼は、谷根川の大釜を見て、これ



も面白いねと。さらにびっくりしたのは、八十八ヶ所あるんですよ。地滑りの専門家でありながら、八十八ヶ所知らなかった。現地見て、あれだけの巨岩が、非常に生々しく、しかもすぐ近くに住居がある。こういった自然環境に、そういった環境、人間と自然が近いところにいる。これは日本でも極めて珍しい。極めて価値高いと。

私の提案では、ポットホールだけじゃなくて、八十八ヶ所、月不見の池、強羅巡りとか、さらに上に行くと、滝があります。全て大規模な地滑りが形成した地形群なんです。これをセットにしていけば、市の天然記念物どころか、国もかなり有望なんじゃないかなというふうに思ってます、私は。

そういった意見が正当なのかどうかを専門家、今、県の文化財保護審議会の地質担当の先生は、新潟大学の卜部厚志先生という方で、竹之内館長ともよく知り合いだというふうに聞いておりますので、そういった人にも時間を見つけて来ていただいて、価値の確認をされることを強くお勧めします。

続いて、拇海新道についてですけれども、きらら青海、ロビーには、小野 建さんが、非常に愛したガーネットアンフィボライトという石があるんですけれども、そのきらら青海には、小野 建さんに関する展示コーナーが作られています。その展示について、伺います。

展示内容というのは、お店のショーウィンドウと一緒に、時々更新したり、場所を変えたり、品を変えたりするのが、好ましい展示方法です。小野 建さんに関する展示コーナーは、当初の展示から更新されていますでしょうか。

それから、50周年の節目の年でありますので、先ほど答弁にありましたミュージアムでの特別展だけではなくて、きらら青海と能生生涯学習センターにも特別な展示コーナーを設けて、拇海新道50周年を広く市民の方にお伝えするようなことはできないでしょうか。

以上、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

拇海新道の50周年の特別展につきましては、7月22日から9月26日まで、フォッサマグナミュージアムで開催するということになっております。その中で、22日には記念講演会もやります。また、7月10日から、きらら青海において小野 建さんの写真展、拇海新道の写真展を行うことになっております。

能生生涯学習センター等でも特別展をというお話でございますが、その点は、現在のところ考えておりません。フォッサマグナミュージアムで開催しております特別展に多くの方から来館していただければというふうに考えておりますし、特別展以外でも有料の展示室にも見学に訪れていただければというふうに考えております。

ただ、せっかくの特別展ですので、PRには努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

特別展に合わせて作ってきた図録についてです。

答弁にもありましたように毎回図録を作ってきたわけではないです。

ただ、今ここに持ってきたものが、フォッサマグナミュージアムで発行した図録類です。これ4冊とも全部合併前に発行されています。合併後に発行された図録は、実はこれだけなんです。もうこれ以降、1冊も出ていない。

実は、図録を作るには、こういった準備が必要かということ、開催は大体夏です。夏の開幕日に印刷されていなければなりませんので、4月から準備したのでは遅いんです。つまり前年度のうちからじっくり準備をして、この図録を作るのが時々されてました。毎回ではないですけども、重要な、例えばヒスイなどの展示会では、こういった石の所有者のところに出向いて、写真を撮らせてもらって、図録用のデータを作って、そういったことをかなり長い時間をかけてきたんです。

ところが、今はそういったことがなかなかできなくなってるというのは、展示会に使う時間が物すごく短くなってるんです。つまり前の年から準備するようなことがなかなかできない。本当に春のそういうときからばあっとやって、仕上げる。それに伴って、やっぱりどうしても展示会の質が落ちてる。これは僕が館長時代も指摘してたことなんですけれども、やればよいというもんじゃないですね。やっぱりより質の高いものを市民の方に見ていただくような基本方針をぜひ再確認していただきたい。

これ要望です。

糸魚川—静岡構造線については、長年の努力の結集で、国の指定を受けたということで、大変私もそれを聞いてびっくりしましたし、よかったなというふうに思いました。

ところが、糸魚川で天然記念物が単独で指定されるのは何年振りかということ、糸魚川—静岡構造線の前の指定のときに生まれてた人は、僕の前には市長と議長しかいないんです。後の方はみんな生まれてないんです。つまり1957年の2月22日に、旧青海町のヒスイ峡、青海川のヒスイ硬玉産地、これが指定されて以来、64年振りなんです。64年振りに糸魚川で天然記念物に指定された。これは物すごいことだと僕は思ってるんです。

ところが、市のホームページには、ちゃんと指定されましたということが、きちんと出てます。

ただ、64年振りだとか、画期的だとか、すごいことだとか、そういう心の感動というか、動きがないんですね、残念ながら。だから、市の広報にも3月23日以降、あまり具体的な指定を伝えるような動きがない。それから、フォッサパークの入り口ののぼり旗にも特に指定を伝えるようなものでもない。これは僕、すごく残念です。やっぱりすごいことを皆さんはやったんですから、それをきちんと伝えていったほうがいいと思います。それはやっぱり糸魚川ジオパークですごいねという評価になるからです。

それから、枕状溶岩ですけども、根室車岩よりも大きいというような評価をお聞きしました。実は、根室車岩というのは、昭和12年に国の指定を受けている枕状溶岩です。それよりも、それは直径6メートルありまして、根知のは直径12メートル、ですから、直径で2倍あるんです。ということは、体積でいうと、その3乗になりますよね。それぐらいすごいものが根知にあると。やっぱり市で1番とか新潟県で1番というレベルじゃない。国内で1番に近い、あるいは最大級と言ってますけど、そういったものがあるわけです。ぜひそれも国の指定の天然記念物を目指していた

だきたいなど、これは希望です。すごいものがあるということです。

残り5分になりましたので、今度は、オオキンケイギクの話です。

皆さん、オオキンケイギクは、ご存じですよ。食べたことあるよとか、そういう人いないですね。オオキンケイギク、実は、議員さんにもちょっと聞いたんですけども、そんなのあるのという人もいました。これがオオキンケイギク、これ今時分、結構あちこちに咲いています。道路を車で走っていると、黄色い花が目につく。全部が全部オオキンケイギクではないですけども、コスモス並みの大きさで、まっ黄色で非常に目立ちます。

実は、これは特定外来植物として、積極的に駆除しなければならない悪い植物なんです。もしこれを糸魚川市が積極的に栽培したとしたら、1億円以下の罰金に処せられるぐらいのものなんです。個人でやると300万円以下。こういった植物が、いかに除去するかというのは、やっぱりホームページで除去してくださいねというだけでは、なかなか効果的じゃないと思うんですね。やっぱり組織立ってやるのが、大事なのかなというふうに思います。

糸魚川市として、どの程度オオキンケイギクの、例えばどこどこに多いのかなとか、そういったことはどの程度把握されてますでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

お答えします。

現在のところは、オオキンケイギクの詳細な分布などについては、把握しておりません。一般的には、減ってはいないという状況であります。機会を通じて、地区の皆様方に環境デーなどでの機会にやっていただいているという現状であります。

こういったことを継続して、努めていきたい、駆除に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

石の専門家である宮島が、なぜ植物のことを質問したかということ、実は私自身の経験なんです。実はミュージアム時代に、私はミュージアムのホームページを作っていて、そこにミュージアムの敷地内で観察できる植物としてオオキンケイギクを載せてました。植物の専門家から、実はこれは栽培してはいけないものだよと指摘を受けて、初めて気がついたんです。当時の、名前は分かりませんが、環境生活課に相当する部署にオオキンケイギクの問題知っていると聞いたら、担当課も知りませんでした。以来、オオキンケイギクという植物についての認識が始まったわけです。

僕も糸魚川をよりよくしたいということで、少なくともやっぱりオオキンケイギクは、除去をみんなでしょうよというふうに考えています。参考になるものは、福島県のいわき市ってありますね、小野 建さんの出身地です。いわき市のホームページでオオキンケイギクを見ると、糸魚川のホームページよりかなり丁寧に書かれています。例えば法律の問題、それから植物の写真も遠いところ

ら見たやつと近くで見たやつの2枚、それから、持ち帰って庭で植えちゃ駄目だよというのも書いてあります。さらに、道路や河川で見かけたら、担当課に教えてねとも書いてあります。これはぜひ参考にされて、オオキンケイギクの除去に努めていただきたいと思います。

いろいろなことをお聞きしましたけども、前向きな、かつ丁寧なご回答をいただき、心より感謝いたします。

これをもちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、宮島議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで暫時休憩いたします。再開を25分といたします。

〈午後3時13分 休憩〉

〈午後3時25分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。〔11番 保坂 悟君登壇〕

○11番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、官製談合の再発防止策と入札制度の改善について。

(1) 官製談合の要因を徹底究明するための調査委員会について。

- ① 調査対象期間や関係職員はどこまで遡るのか。
- ② 調査報告書はいつまでにまとめるのか。
- ③ 入札方法の抜本的な改革を行うのか。

(2) 入札に対する市職員の認識について。

- ① 5月25日の緊急質問で部課長は、「応札業者がないこと」や「予定価格内に収まること」を心配しているが、その背景に談合があるのか。
- ② 5月28日の新聞報道で、2012年度以降担当課職員であれば誰でも入札予定価格を閲覧できる状態とある。理事者をはじめ、市職員の入札に対する意識が崩壊しているのか。

(3) 5月21日の市議会説明会の中村議員への答弁について。